

会員でつくるページ

医療関連分野でご活躍の方！

第1回 山口県産業技術センター 理事長 山田隆裕



協議会幹事であり、産業支援機関の山口県産業技術センター山田理事長に、医療関連分野におけるセンターの取組などをお聞きしました。

- 幹事を務められている協議会は、どのような役割を果たすべきとお考えですか。
最初は会員相互の交流、情報収集や提供が主体となるでしょうが、その後は、“企業間連携や産学連携による研究開発又は事業化プロジェクトを生み出す場”としての役割を果たすべきと考えています。
- そのため、センターとしては、どのような活動を行う予定でしょうか。
企業間連携や産学連携については、「イノベーション推進センター」の医療関連推進チームで、安田プロジェクト・プロデューサーを中心に様々なコーディネート活動を行っています。協議会会員の方からの積極的な提案もお持ちしています。
- その他に、医療関連分野の取組を教えてください。
製品の商品化や部品の製造工程において技術的な課題があれば、技術相談室にご相談いただければ、当センター所有の試験研究機器などを活用しながら、担当職員がその解決を支援します。また、今年度末には「金属系3Dプリンター」の導入を予定していますので、ご活用ください。

医療関連分野で頑張る企業紹介！

第1回 株式会社ヤナギヤ



自社の技術を活用し、他分野から医療関連分野への参入を目指されている株式会社ヤナギヤのお話をお聞きしました。

- なぜ本業ではない、医療関連分野に進出されるのですか。
当社創業以来のメインユーザーは水産練り製品業界ですが、かねてより海苔・豆腐・製菓等、当社のシーズが活かせる食品業界への展開を図ってきました。2015年に創業100周年を迎えるに当たり、更なる展開として医療関連分野への進出に取り組んでいます。
- 参入を目指される中で、良かったことや苦労されたことはどのようなことですか。
新規参入であり、業界ニーズを捉えている訳ではありません。食品業界では新規ユーザーでも生産設備が即採用になるケースが多くありますが、医療関連分野ではメーカーとの関係作りが大切だと感じています。
- これまでの取組みと、今後について教えてください。
これまでも医薬品や医療機器メーカーからスポット的に設備案件はありました。これらの案件でそのユーザーとの関係作りはできましたが、業界全般に継続発展していくものではありません。ニーズを理解し、良い自社製品を提案していくためにも、業界との関係作りを進めていきます。
- 協議会に期待されることを教えてください。
まだ手探りの状態ですので、情報と機会が重要です。様々な情報の提供や、医療関連メーカーとのマッチングの機会を設けていただける協議会の活動に感謝しています。

【問い合わせ先】

〒753-8501 山口市滝町1-1 山口県商工労働部新産業振興課（産業クラスター推進班）
電話：083-933-3150 FAX：083-933-3159
メール：a16900@pref.yamaguchi.lg.jp

山口県新産業振興課



Yamaguchi Council Medical networking



医療関連成長戦略推進協議会



会長を務めます山口県副知事の藤部です。
本県における医療関連産業の育成・集積を推進するため、産学公金連携による全県的なネットワークである本協議会を、昨年10月に設立し、約1年が経過しました。
本協議会の趣旨に賛同し、ご入会いただいた企業・機関の数は160を超え、医療関連分野への興味や関心の高さが窺い知れます。

本協議会では、この間、シンポジウムやニーズ発表会等を開催し、会員相互の交流や連携の場を創出するとともに、全国トップレベルの県の補助制度や「イノベーション推進センター」の支援体制等を活用し、研究開発・事業化の促進を図ってきました。
今後も、こうした取組みを加速化させるため、活発な協議会活動を展開して参りますので、会員の皆様も積極的にご参加ください。

平成26年度「やまぐち産業戦略研究開発等補助金」の採択

山口県では、付加価値の高い成長が期待される医療関連や環境・エネルギー分野における研究開発や事業化を促進するため、平成26年度の「やまぐち産業戦略研究開発等補助金」の募集を行い、医療関連分野では「技術シーズ調査」4件(事業)、「研究開発・実証試験」6件(事業)の採択を決定しました。
なお、平成25年度については、技術シーズ調査」6件(事業)、「研究開発・実証試験」3件(事業)を採択しています。

平成26年度 研究開発・実証試験

申請者（共同研究者）	事業の名称（概要）
宇部興産(株)	○機能性素材の特性を活かした医療事業への展開 (自社保有の機能性素材の特性を活かした、効率的物質生産の研究開発による医療事業等への展開。)
マルハニチロ(株) (山口大学)	○予防医学に基づく機能性魚肉練り製品の開発と世界展開 (高血圧や動脈硬化性疾患に対応する機能性魚肉練り製品(魚肉ハンバーグ等)の開発。)
山口大学 (山口県立総合医療センター) (岩谷産業(株)) (株)特殊ガス商会)	○医療・健康分野における水素応用技術開発 (高濃度水素水の医療分野への臨床応用及び飲料用水素水・水素風呂等の水素ヘルスケア製品の実用化開発。)
山口大学 (ユキエンジニアリング(株))	○再生医療による難治性皮膚潰瘍治療法の開発及び培養システムの確立 (自己の細胞を用いた低侵襲で安全な難治性皮膚潰瘍治療法及び小型細胞輸送装置の開発。)
山口大学 (株)伸和精工) (熊本大学)	○てんかん病態の多面的計測による局所脳冷却制御技術の開発 (大脳の局所冷却によるてんかん治療システムを確立するための、計測装置及び冷却デバイスの開発。)
(株)YOODS (第一医科(株)) (山口大学)	○めまい診療用次世代フレンチェル眼鏡と眼球運動解析システムの開発と実用化 (めまい診療用の次世代眼球運動観察用眼鏡の開発及び眼球運動解析ソフトウェアの実用化。)

「やまぐち医療関連成長戦略推進協議会シンポジウム」を開催しました。

- 日 時 平成 26 年 9 月 10 日 (水曜日)
14:00~17:20
- 場 所 ANAクラウンプラザホテル宇部
国際会議場 3 F
- 参加者 約 200 人



当日は定員を超える 200 人以上の方に、ご参加をいただきました。

今回のシンポジウムは“ものづくり企業の医療機器分野への展開を促進すること”を主なテーマとして、基調講演や参入事例の紹介、パネルディスカッション等を行いました。



◎基調講演 早稲田大学ナノ理工学研究機構研究院教授 谷下 一夫 氏

- ▼日本の医工連携の致命的欠陥は、医療現場とものづくり現場が乖離して、医療ニーズ立脚型開発が出来ていないこと。
- ▼医療側とものづくり側の関わり方の成功例としては、両グループが継続的な意見交換や討論の場を有している。

◎パネルディスカッション

《パネリスト》

- 山口大学学長 岡 正朗 氏
- (株)ニッコーテック
代表取締役社長 野口 享志 氏
- 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)
主任研究員 柏野 聡彦 氏
- 山口県産業技術センター
プロジェクトプロデューサー 安田 研一 氏



《コーディネーター》

- 早稲田大学ナノ理工学研究機構研究院 教授 谷下 一夫 氏

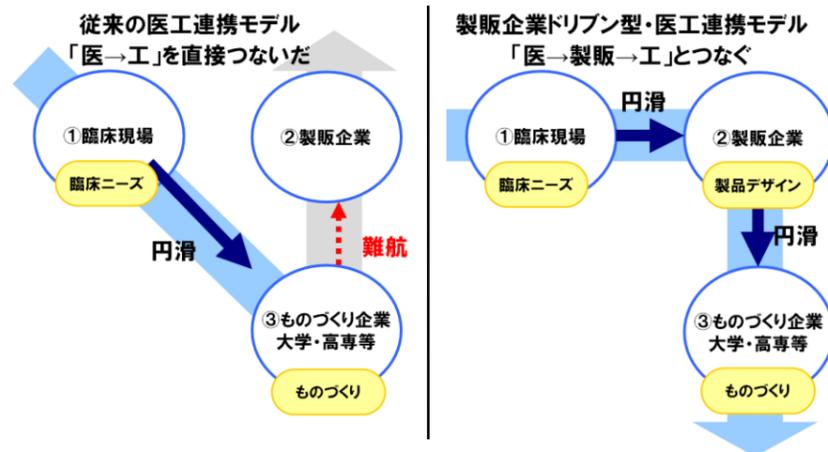
【山口県の強み等を活かした医療機器産業の活性化戦略について】

- ▼山口県の中小企業は技術力があるので、医工連携を進める潜在能力はある。それを協議会でまとめていけば、良いものが出来上がる。
- ▼山口県においては、関係者の協力があり、全国トップレベルの補助制度もあることから、医工連携の環境は整っている。ニーズとシーズのマッチングなど具体的な取組みを進めていくと良い。
- ▼製販ドリブンモデルの山口県版は可能。ものづくり企業は、中小の製造販売業者との共同研究等で実力を磨き、大手企業が組みたいと思わせる実力を付けていくことも重要。

「製販ドリブンモデル」とは
(製販企業ドリブン型・医工連携モデル)

- 新しい医工連携のモデルであり、従来とは異なり、先ず臨床現場と製販企業を結び付けることが特徴。
- 臨床ニーズに基づく製販企業の製品デザインに、ものづくり企業に関わることで、医工連携に無理なく円滑な参画が可能となる。

これまでの医工連携、これからの医工連携



医療現場における 医療分野の研究者との
ニーズ発表会&交流会
医療現場のニーズ×ものづくり技術

第1回 [8月26日(火)] 17:30~20:00 場所 山口大学 参加者 68人

- ▼初めてのニーズ発表会を開催しました。医療現場に従事している4人の医師や看護師の方から、医療現場の課題やニーズ等についての発表があり、参加者の方は熱心に聴き入っていました。
- ▼発表会の後は、医療分野の研究者とものづくり企業との交流会も開催され、会場内は活発な意見交換が行われました。



【発表テーマ】

- ① 眼科手術用ステープラー
- ② 特定の騒音が遮断可能なヘッドフォン
- ③ マーキングされ紛失しにくい小型の手術針
- ④ 看護現場の視点からのニーズ

第2回 [9月29日(月)] 17:30~20:00 場所 山口大学 参加者 66人

【発表テーマ】

- ① 手術しながら使えるポインター
- ② コイルキャッチャーの改善
- ③ 血液運搬用保冷バッグの開発
- ④ 抗がん剤調製時の器具の開発、気密性・安全性の高い固形剤のすり潰し器の開発

第3回 [10月27日(月)] 17:30~20:00 場所 山口大学 参加者 53人

【発表テーマ】

- ① 閉鎖式の骨髄採取システムの開発
- ② 糖尿病用の持続血糖測定(CGM)システム改良
- ③ 糖尿病用のインスリンポンプ(CSII)の改良
- ④ 人工血管の自動縫合

協議会の今後の取組

◆「医療関連企業見学会」の開催

- 日時 平成 26 年 11 月 28 日 (金)
- 場所 ①川澄化学工業株式会社野津工場 [大分県臼杵市]
②大分ロボケアセンター株式会社 [大分県別府市]
- 内容 ものづくり企業が、医療機器について、部品・部材供給を含め、医療関連分野の連携や参入、事業展開の参考とするため企業見学を行います。

◆「医療シーン見学会」の開催

- 日時 平成 26 年 12 月 12 日 (金)
- 場所 山口県立総合医療センター [防府市]
- 内容 ものづくり企業が、医療現場で使用されている医療機器・用品・材料等を見学し、現場ニーズや開発機器等のイメージを明確化するため医療現場の見学を行います。

◆専門分野セミナーの開催

- 日時 平成 27 年 3 月 (予定)
- 内容 医療関連産業分野への参入において必要となる専門分野(品質、規制等)のセミナーを開催し、中小企業者の育成を図ります。